

山北町立山北中学校

研究テーマ：「主体的・対話的で深い学びづくり

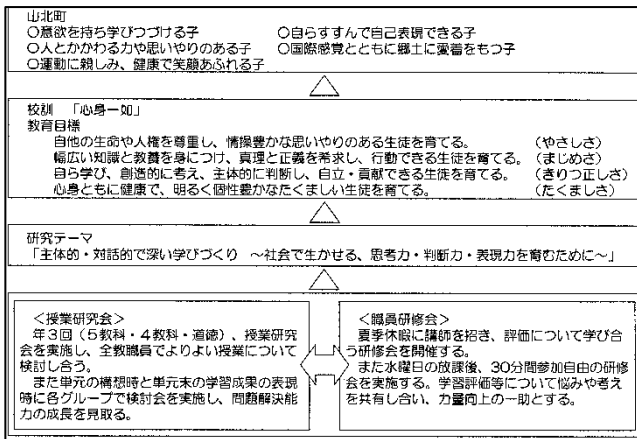
～社会で生かせる思考力・判断力・表現力を育むために～

1、実践の目的

山北中学校のスローガンは「すべての生徒が安心して自己表現できる学校をめざして」である。各教科で「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」すなわち「問題解決能力」を育成することにより、スローガンにある「安心して自己表現するための力」につながると考えた。

こうした資質・能力の育成のために、今年度は「子どもの姿から成果を見とること」を大切にしたい。授業づくりにおいては、単元を貫く学習課題を設定し、山北スタンダードカリキュラムの「受け取る力」「伝える力」を意識した学習活動等を取り入れ、課題解決に向けた単元構成を工夫した。

山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」基本方針では、15歳のめざす子ども像として5点示されており、このめざす子ども像の共有と授業研究会、職員研修会の充実をもって、研究テーマ、学校教育目標、山北町のめざす子ども像の達成をめざした。



<研究構想図>

2、実践の内容

(1) 評価規準と評価基準を明確にした学習単元づくり

これまでの校内研究の課題で、教職員も生徒も、社会で生かせる思考力・判断力・表現力の具体像の認識に齟齬があったことが挙げられた。そのため、学習する単元で学ぶべき目標を明確にし、評価基準を設定することで、学びの方向が明確になると考えた。

そこで今年度は、公開授業を実施する中で、これまでの評価規準に加え、評価基準を明記し、まず教職員自身がめざすべき生徒の具体像を意識することとした。

(1) 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
キュビズム、シュールレアリスムなどのピカソが用いた美術的な表現方法や、当時の時代背景や出来事を基に、作品を本質的に捉えている。	作品がもつ造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な工夫などについて考察し、作品に対する多面的な見方や感じ方を深めている。	その作品のよさや美しさを感じとり、他の生徒との話し合いを通して、作者の心情や意図を理解しようとしている。
(2) 単元の評価基準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多様な表現方法とその意図や工夫、当時の時代背景や出来事など、様々な要素が作品を構成していることを理解した上で、作品を鑑賞して感じたことやよさを表現することができる。	作者の心情や意図、創造的な工夫などを関連づけながら、作品に対して多面的な見方でよさを表現することができる。	他の生徒との話し合いを通して、良いと思った意見はメモをするなどして、自分の意見を広げつつ、作者の心情や意図を理解しようとしている。

<評価規準、評価基準の例 美術科>

(2) 研究全体会や研修会における評価方法の共有

評価規準や評価基準、評価を行うための学習成果物は、これまで各教科担当に委ねられており、他教科の教職員がどのように評価を行っているかは不明確であった。そのため、今年度は有志職員による放課後の学び合いの会として、「ちょこっと研修会」を企画・運営した。内容は評価のみならず、

書く力を高めるための指導技術や学習支援を必要としている生徒への関わり方、クイズアプリ「Kahoot!」の使い方など多岐に渡る。特に「ちょっと研修会」発足当初は、主体的に学習に取り組む態度の評価方法や各教科の振り返りシートの共有など、評価に傾倒した研修内容を実施した。

3、実践の成果

(1) 評価規準と評価基準を明確にした学習単元づくりについて

学習指導案を作成する過程で、「具体的な子どもの姿をもとにした授業づくりにつながった」という声が聞かれた一方で、「評価基準の作成が難しい」という声も聞かれた。今年度の校内研究をとおして評価規準・評価基準の意味と目的について改めて共有し、生徒の資質・能力を高め授業実践に生かすことができるよう、校内研究会や教職員による研修会をさらに充実させていきたい。

(2) 研究全体会や研修会における評価方法の共有について

夏季休業期間に実施した校内研究全体会において、講師に元帝京大学小学校相談役の矢野英明氏を招聘し、「思考力・判断力・表現力等」の評価について学びを深めた。

研究会では、教職員が2学期以降に実施する単元の評価基準を設定することで、研究内容を自分事として捉えられるようになった。今後も、研修会等をとおして、評価方法の工夫と共有について研究を深めたい。

(3) 0歳から15歳までの一貫教育・保育の推進について

学習指導案に、各学習活動がどのような「伝える力」や「受け取る力」を意識した取り組みであるのか明記することで、教職員

自身が「山北スタンダードカリキュラム」を意識できるようにした。また、「伝える力」や「受け取る力」を生徒が意識できるよう掲示物を作成した。机上に掲示している学年もあり、生徒が「伝える力」や「受け取る力」を意識して学習活動に取り組もうとしている姿が見られるようになった。また、小学校で活用した掲示物を掲示し、生徒は小学校での学びを想起しながら学習に取り組むことができるよう小学校から借用した掲示物を中学校で掲示した。生徒からは「うわ、なつかしい」「小学校の掲示物ですか」という声が聞かれた。また、休み時間には掲示物を眺めながら友人と談笑する生徒もおり、小学校と中学校の学びを接続することにかけて、一定の効果があると考ええる。



<小学校より借用した掲示物>

4、今後の展開

研究テーマ「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」を育むための授業実践等に継続して取り組む。

- ・「社会で生かせる思考力・判断力・表現力」の高まりの見とり
- ・研究内容により焦点化した学習指導案の作成や研究協議の実施
- ・単元全体をとおした成果と課題の検討
- ・「0歳から15歳までの一貫教育・保育」のより一層の推進